

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年6月1日 ※1
(前回公表年月日:令和4年6月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																											
専門学校 岡山情報ビジネス学院		昭和61年7月26日		学院長 三村 光		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																											
学校法人 三友学園		昭和61年7月26日		理事長 野津 基弘		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																																											
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																																									
工業	工業専門課程		情報システム学科			平成7年1月23日 文部科学省告示		—																																									
学科の目的		日々進化するIT業界で必要な専門知識やプログラミングを基礎から学習。さらにチームで協力し、システムの開発やコンテストに参加することで応用力を伸ばす。問題を解決する力を身につけることで、市区戦力として活躍できる人材を育成する。																																															
認定年月日		平成27年2月17日																																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																																									
2年	昼間	1722	547		1976	1222	0	0																																									
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数																																									
80人		130人		1人		4人		3人																																									
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日				成績評価	■成績表: 有																																											
						■成績評価の基準・方法 評価の基準: 成績評価はS、A、B、C、Dの4段階科目																																											
						評価の方法: 終了時に試験、レポート等で評価																																											
長期休み	■夏 季:8月9日～8月27日 ■冬 季:12月24日～1月10日 ■学年末:2月5日～3月11日				卒業・進級 条件	卒業要件:①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上 ②出席率90%以上 ③卒業基準検定の取得 進級要件:①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上 ②出席率90%以上																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有				課外活動	(例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、研修旅行																																											
	■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等					■サークル活動: 有																																											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) アイイーファイヴ(株)、カシスコミュニケーション(株)、スマートスケープ(株)、(株)イー・サポート、(株)サニー技研、(株)テクノデジタル、(株)プライム、(株)プロビズモ、(株)ユーコム、(株)湯山製作所、アドバンスシステム(株)、(株)クイック、(株)セブンティエイトアイティ 他				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																											
	■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。					<table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>基本情報</td><td>③</td><td>28人</td><td>11人</td></tr><tr><td>情報セキュリティ</td><td>③</td><td>4人</td><td>3人</td></tr><tr><td>情報処理1級</td><td>③</td><td>6人</td><td>2人</td></tr><tr><td>情報処理2級</td><td>③</td><td>56人</td><td>34人</td></tr><tr><td>C言語2級</td><td>③</td><td>55人</td><td>29人</td></tr><tr><td>C言語3級</td><td>③</td><td>56人</td><td>55人</td></tr><tr><td>JAVA2級</td><td>③</td><td>25人</td><td>14人</td></tr><tr><td>JAVA3級</td><td>③</td><td>35人</td><td>17人</td></tr><tr><td>AI検定</td><td>③</td><td>28人</td><td>14人</td></tr></table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報	③	28人	11人	情報セキュリティ	③	4人	3人	情報処理1級	③	6人	2人	情報処理2級	③	56人	34人	C言語2級	③	55人	29人	C言語3級	③	56人	55人	JAVA2級	③	25人	14人	JAVA3級	③	35人	17人	AI検定	③	28人	14人
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																													
	基本情報	③	28人	11人																																													
	情報セキュリティ	③	4人	3人																																													
	情報処理1級	③	6人	2人																																													
情報処理2級	③	56人	34人																																														
C言語2級	③	55人	29人																																														
C言語3級	③	56人	55人																																														
JAVA2級	③	25人	14人																																														
JAVA3級	③	35人	17人																																														
AI検定	③	28人	14人																																														
■卒業者数 56 人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																																													
■就職希望者数 54 人				①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																																													
■就職者数 52 人				②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																																													
■就職率 96 %				③その他(民間検定等)																																													
■卒業者に占める就職者の割合				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 なし																																													
:				93 %																																													
■その他 ・進学者数: 0人 ・健康上																																																	
(令和 4 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																																	
中途退学 の現状	■中途退学者 8 名 令和4年4月1日時点において、在学者140名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者132名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・学力不振・健康上				■中退率 6 %																																												
	■中退防止・中退者支援のための取組 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等																																																
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施)、後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施)																																																
	■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 4名																																																
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載																																																
	評価団体: 専門職高等教育質保証機構		受審年月: 平成31年2月		評価結果を掲載した ホームページURL		https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf																																										

当該学科の ホームページ URL	https://www.oic-ok.ac.jp
------------------------	--------------------------

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

IT技術者育成のために、システム業界関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年6月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
楠戸 國正	一般社団法人システムエンジニアリング岡山 専務理事・事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	①
川口 善之	株式会社ジェイテック 技術部部長	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
塚田 亮一	アシアル株式会社 取締役	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
内山 将大	株式会社湯山製作所 総務部人材開発課 係長	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	③
妹尾 潤	専門学校 岡山情報ビジネス学院 情報システム学科 学科長	令和5年4月1日～令和7年3月 31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月24日 16:00～17:30

第2回 令和5年1月25日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専門的な知識技術はもちろんだが、業界や社会の課題を解決する思考を養うことが大事になる。モノづくりは出来るようになっているが、アイデアの深掘りや検証、プレゼンテーション能力が他校に比べて劣るという意見が、コンテストのメンバーからもあった。

上記の能力を伸ばす取り組みを考える必要があるのではないか。

⇒システムアイデア探索という授業の中で新規開発案の探索とプレゼンテーションの質向上を行っている。個人＋グループにて新しいアイデアを自ら見つける訓練をしている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT業界で即戦力となる技術者育成のため、ソフトウェア開発企業を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはソフトウェア開発についての仕事全般が体験でき、システムエンジニア、プログラマーとして活躍している方からシステム開発に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

キャリア実習に関しては、主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

システム運用実践に関しては、システム運用の分野において、最前線で活躍されている日本テクノス様よりシステム運用に必要な基礎知識からハンズオンの実践までを講師として直接指導していただいている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
キャリア実習	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	スマート・スケープ株式会社、コアテック株式会社、トリツ機工株式会社、エムテック株式会社、株式会社湯山製作所、株式会社イー・サポート、株式会社テクノデジタル、株式会社トスコ、株式会社アルク、スリープラス株式会社、株式会社プロビズモ 等 全 29社
システム運用実践	ITシステムの運用業務について、職種の概要から実業務、必要となるスキルを習得する。	株式会社日本テクノス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	実践的なプログラミング教育の考察	連携企業等: 株式会社サーティファイ
期間:	44953	対象: 妹尾 潤
内容	第1部では、サーティファイ様で実施している、筆記ベースではなく、プログラミング実技形式の検定のご説明。受験者が学生と実務者両方存在するので、学生と実務者の分布から見る考察を紹介いただいた。第2部では、実際の試験問題の解説とそれに合わせて得点を取る際にポイント、受験者の正答率をからみた、得点を伸ばすポイントの考察をご説明いただいた。プログラミングの実技を行う上での実技面でのアドバイス、質問行うことができ、技術力向上につながった。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	アセスメントと評価活動の実践～専門学校用の教材等を用いた設問の作り方～	連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和4年10月6日(木)13:00～17:00	対象: 専門学校教師
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、学習者の学修成果を適切にアセスメントすることと、それらの情報を含めて教育活動を適切に評価することが必須となり、実際に各教員が現場で使用しているテスト問題等を題材として、ブラッシュアップしていくことで実践的な評価手法を体系的に学ぶ研修である。	
研修名:	学習評価講座	連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和5 年1月12日(木)13:00～17:00	対象: 専門学校教師
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、学習評価に関する基礎知識を習得し、その必要性・重要性を知ることが目的の研修である。	
研修名:	若者の「社会化」を支える専門学校	連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和5年2月15日(水)13:00～15:30	対象: 専門学校教師
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、学習評価をする上で、在校生を含め若者たちの世界観を知り、どう対応をしたらいいのか、評価基準について等、高校生の現状を含めて専門学校の位置づけや使命についての知識を深めることを目的とした研修である。	

(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	Linux研修コンテナを使った複数のLinux学習環境の構築方法と使用方法	連携企業等: LPI-Japan
期間:	45129	対象: 学科内教員
内容	インフラエンジニアとして活躍できるよう体系立ててLinuxを学習するために作られた出題範囲の王題をベースに実施。コンテナを使用した複数のLinux学習環境の構築方法と使用方法について学べる。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	ICT活用研修	連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和5年8月予定	対象: 専門学校教師
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、ICTを活用して、授業の効率化と学びの質向上を図ることを目的とした研修である。	
研修名:	学習評価 応用編	連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和5年12月予定	対象: 専門学校教師
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、昨年度受講した学習評価に関する基礎知識の応用編の研修である。	
研修名:	休退学防止に向けて心理学的対応について	連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和6年3月予定	対象: 専門学校教師
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、今専門学校でも問題となっている退学者の増加について退学者を防止するにあたり、心理学的な対応方法を教師が修得することを目的とした研修である。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発 部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生・ 企業等委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	PTA
山本 渉	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 運 営企画室 室長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
佐藤 新之助	株式会社イトン イートンちどり保育園 取締 役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 総務戦略本部 本部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	株式会社ペンギンファクトリー 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
浦谷 友章	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社トスコ 専務取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: URL:https://oic-ok.ac.jp/assets/document/about/info/02--new.pdf

公表時期: 令和4年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護方針)
(2)各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3)教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7)学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	現在はありません
(11)その他	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.oic-ok.ac.jp/>

公表時期: 令和4年6月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自由 選 択						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コンピュータ概論	テクノロジー分野（基礎分野）、マネジメント・ストラテジに関する知識の学習。経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルを習得する。	1前期	98	4	○	△		○		○		
2	○			ネットワークセキュリティ	ネットワーク、セキュリティに関する知識の学習。経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルを習得する。	1前期	36	2	○	△		○		○		
3	○			プログラミングⅠ	JAVA SE範囲のオブジェクト指向プログラミングの基礎知識を習得する。	1前期	75	4	○	△		○		○		
4	○			アルゴリズム概論	プログラムの処理手順の学習。経済産業省基本情報処理技術者の午後分野合格レベルを習得する。	1前期	77	4	○	△		○		○		
5	○			ビジネスアプリケーション演習	Excelの基本操作と書類作成力を身につける。	1前期	22	1	△	○		○		○		
6	○			ペン字	履歴書やビジネス文書等で書く文字バランスを身につける。	1前期	15	1	△	○		○			○	
7	○			ビジネス実務Ⅰ	就職活動のプロセスの理解を深め、具体的な行動を起こせるよう自主性を身につける。	1前期	56	3	△	○		○		○		
8	○			ビジネス実務Ⅱ	基本的なビジネスマナーについて社会人常識マナー検定を通じて習得する。	1後期	74	4	△	○		○		○		
9	○			プログラミングⅡ	JAVA SE範囲のオブジェクト指向プログラミングの演習を通して習得する。	1後期	21	1	○	△		○		○		
10	○			情報リテラシー	演習を通じて情報技術の基礎知識について習得する。経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野が合格できるようになる。	1後期	24	1	△	○		○		○		
11	○			プレゼンテーション技法	PowerPoint演習を通し、基礎的な使い方、操作方法、効果的な話し方を習得する。	1後期	18	1	△	○		○		○		
12	○			キャリア実習	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	1後期	80	2			○		○	○		○
13		○		情報処理技術者Ⅰ	経済産業省情報処理技術者レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行い基本情報技術者試験を合格できるようになる。	1後期	85	4	△	○		○		○		
14		○		プログラミングⅢ	ライブラリ、外部ファイル、データベースなどを活用したJavaでのシステム開発技術を学習する。	1後期	71	4	△	○		○			○	
15		○		HTML・CSS	Webページ作成の基本となるHTML、CSSの基礎知識を演習を通じて身につける。	1後期	40	2	△	○		○		○		

16		○	システム開発 I	ウォーターフォールモデルで例題をもとに、基本設計から外部設計まで設計書の考え方、書き方を身につける。	1 後期	72	4	△	○		○			○	
17		○	プログラミング演習 I	様々なプログラミング課題演習を通してJava言語を用いてプログラミングを習得する。	1 後期	68	4	△	○		○		○		
18		○	UI・UX	システム開発における、画面構成やデザインができるようになる。	1 後期	24	1	○	△		○		○		
19		○	Web アプリケーション演習	ハイブリッドアプリケーション開発の基礎となるHTML5、CSS3、Javascriptを使用したプログラミングができるようになる。	1 後期	76	4	△	○		○		○		
20		○	クラウド開発演習	クラウド環境を用いたシステム開発について演習を通して習得する。	1 後期	##	4	△	○		○		○		
21		○	マイコン実習	組込みシステムに必要な知識と、周辺機器の利用方法について実習を通して習得する。	1 後期	78	2	△		○	○		○		
22		○	UML	オブジェクト指向開発における設計書の書き方について実習を通して習得する。	1 後期	51	3	○	△		○		○		
23		○	PLC基礎	コンピュータの制御に必要な知識を習得する。	1 後期	71	4	○	△		○		○		
24		○	Linux I	Linuxで作業を行ううえで必要なコマンドを実習を通して習得する。LPICレベル1合格レベルができるようになる。	1 後期	68	2	△		○	○		○		
25	○		ビジネス実務 II	実社会で求められる挨拶や立ち居振る舞い等を実践も踏まえて習得する。	2 前期	47	3	△	○		○		○		
26	○		システムアイデア探索	システム開発のアイデア創出、提案資料作成、発表を通して習得する。	2 前期	23	1	△	○		○		○		
27	○		システム運用実践	ITシステムの運用業務について、職種の概要から実業務、必要となるスキルを習得する。	2 前期	47	3	△	○		○		○		○
28	○		ライフデザイン学	自身のルーツを振り返り、自己・他者と対話を繰り返すことで、主体的に将来（人生（ライフ）／自己実現／生き方）を設計する力を身につける。	2 後期	15	1	△	○		○		○		
29	○		ビジネス実務 III	社会人としてすぐに働くことを想定したマナー・考え方・一般常識の習得する。	2 後期	35	2	△	○		○		○		
30	○		プレゼンテーション演習	企画したシステムを通して、効果的なプレゼンテーション力を習得する。	2 後期	15	1	△	○		○		○		
31		○	情報処理技術者 II	経済産業省情報処理技術者試験に向け適宜模擬試験を実施し、基本情報・応用情報が合格できるようになる。	2 前期	82	4	△	○		○		○		
32		○	プログラミング IV	サーブレット・JSPの基本的な文法及び考え方を学習し、サーブレット・JSPを用いたプログラミングができるようになる。	2 前期	94	4	△	○		○			○	
33		○	システム開発 II	オブジェクト指向によるシステム開発の設計手法を習得する。	2 前期	57	3	△	○		○			○	
34		○	システム開発 III	ソフトウェア詳細設計以降の工程を学習し、システム開発の流れ、考え方を習得する。	2 前期	53	3	△	○		○			○	
35		○	Visual Basic. Net実習	複数Formを利用したWindowsアプリケーションの作成ができるようになる。	2 前期	68	2	△		○	○			○	

36		○	システム開発 演習	設計・開発・テストを含めた総合的なシステム開発において、チームでシステムを開発する際に必要となる技術を習得する。	2 前期	49	1	△		○	○	○				
37		○	情報処理技術 者Ⅲ	経済産業省情報処理技術者試験に向け適宜模擬試験を実施し、基本情報・応用情報・高度情報が合格できるようになる。	2 後期	86	4	△	○		○	○				
38		○	卒業研究	2年間の集大成として、グループでシステム企画、設計、開発、テストまでできるようになる。	2 後期	##	4	△	○		○	○				
39		○	システム開発 特講	開発案の創出から開発を通してを設計・開発～本番運用まで総合的に身につける。	2 前期	82	2	△		○	○	○				
40		○	テスト技法	システムのテスト手法について理解し、状況に応じたテストケースの作成、実施方法を習得する。	2 前期	30	2	○	△		○				○	
41		○	AWS基礎	AWS (Amazon Web Services) のプラットフォームを活用したWebシステムの開発技術を習得する。	2 前期	79	2	△		○	○	○				
42		○	Web アプリ ケーション演 習Ⅱ	Vue.jsを活用したWebアプリケーションの作成技術を習得する。	2 前期	##	4	△	○		○	○				
43		○	モバイルアプリ ケーション制 作	外部プログラミングコンテストに出品することを目標とし、アプリケーション作品ができるようになる。	2 前期	58	3	△	○		○	○				
44		○	Web アプリ ケーション演 習Ⅲ	クラウドやAPIなど外部サービスを活用したシステム開発技術を習得する。	2 後期	49	3	△	○		○	○				
45		○	プログラミング 演習Ⅱ	チームでのプログラミング演習を通して、複数人で1つのシステムを開発する際のプログラミング技術を習得する。	2 後期	86	4	△	○		○	○				
46		○	卒業研究	2年間の集大成として、グループでシステム企画、設計、開発、テストまでできるようになる。	2 後期	##	4		△	○	○	○				
47		○	ロボット開発 技術特講	機械、ロボットを活用した開発技術を総合的に習得する。	2 前期	82	2	△		○	○	○				
48		○	LINUXⅡ	Linuxで作業を行ううえで必要なコマンドの習得と環境構築ができるようになる。	2 前期	47	3	△	○		○	○				
49		○	ロボコンⅠ	ETロボコン入賞を目指し、組込み系エンジニアに必要な基本的な技術を身につける。	2 前期	58	1	△		○	○	○				
50		○	通信ネット ワーク	通信ネットワークの基礎を身につける。	2 前期	34	2	○	△		○	○				
51		○	C言語基礎	C言語をベースとしてプログラミングの基本文法、基礎知識を習得する。	2 前期	54	1	△		○	○	○				
52		○	CAD演習	製品のデザイン・設計に関わるスキルを身につける。	2 前期	34	2	△	○		○	○				
53		○	PLC実習	実習を通し、制御PLCプログラムを習得する。	2 通年	72	2	△		○	○	○				
54		○	ロボコンⅡ	ETロボコン入賞を目指し、組込み系エンジニアに必要な基本的な技術を身につける。	2 後期	##	4		△	○	○	○				
55		○	卒業研究	2年間の集大成として、グループでシステム企画、設計、開発、テストまでできるようになる。	2 後期	##	4	△		○	○	○				

56	○	医療事務概論	人体の仕組みと代表的な病気の予防について理解し、健康管理の基礎や簡単な保険請求を学ぶ	2後期	15	1	△	○		○	○		
57	○	ビジネスリテラシー	ビジネスに関連する法律や論理的な判断推理の学習を通じて、ビジネスに役立つ業務におけるリスクを学ぶ	2後期	15	1	○			○	○		
58	○	デザイン入門	書類やスライドなど、どの業界に出ても必要となるデータ作成上で必要となるデザインについての基礎的知識を身につけ、実践する	2後期	15	1	△	○		○	○		
59	○	HP動画	HPや動画を制作するための基礎的な知識やセンスを身につける。	2後期	15	1	△	○		○	○		
60	○	音楽	日本に伝わる四季折々の歌や世界に広がる歌を歌いながら楽器や身体、絵に描く等、表現力を高め感性を豊かにする。	2後期	15	1	△	○		○		○	
61	○	RPA実習	作業自動化ツールであるRPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラムの思考力を養う	2後期	15	1	△	○		○	○		
62	○	Excel・データ分析	Excelを使ったデータの活用、集計、分析方法の基礎知識について学ぶ	2後期	15	1	△	○		○	○		
63	○	応用文章技能	文章を書くための素材を集めるポイントや文章の構成などを講義するとともに、毎回、テーマに即した文章を書くこと（添削あり）を通じて、実践的な文章技能の習得を目指す。	2後期	15	1		○		○	○		
64	○	フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2後期	15	1	△	○		○		○	
65	○	世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事をすることを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2後期	15	1		○		○	○		
66	○	ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2後期	15	1	○	△		○		○	
67	○	ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形（行書体も含む）を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○		○	
合計				31 科目	79(1722) 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法					授業期間等	
卒業要件： ①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上 ②出席率90%以上 ③卒業基準検定の取得					1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 【No. 1-24】 1 年次履修科目 42単位(864単位時間) 16科目 【No.25-67】 2 年次履修科目 37単位(858単位時間) 15科目					1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。